

ものがたり二

純粹なきなりのモノづくり
(農林・水産・観光・商工)

一、人の顔が見えるきなりの産業おこし

きなりの郷では、本物の素材を活かした
「きなりのモノづくり」をめざします。

【現況と課題】

〔農業〕 本村では過疎化、高齢化に伴い農業従事者や耕地面積が減少し、遊休農地が増加しています。

さらに、山間部であることから平地が少なく、一戸当たりの農地も小規模で、自家消費のための農産物の生産がほとんどであり、有害獣による田畑への被害も増加しています。

村では、耕作放棄地の発生防止と水田の多面的機能を確保することを目的として、水田耕作補助金を交付しています。

一方で、本村の農産物の特産化をめざして、「特産物加工所」、「特産物集荷配送センター」を活用し、「南朝味噌」、「春まな漬け」、「とち餅」等、特産物の生産、加工、販売の推進に努めています。が、十分な成果が上がっていない状況です。

これらのうち、「春まな漬け」の材料となる「まな」は、下北山村の気候と土壌に適しており、また、無農薬野菜として商品価値が高く、成分的にもエネルギー、りん、鉄分、カルシウム等が高菜、にんじん、ほうれん草に比べて含有量が高いという特徴もあり、下北山村振興事業組合が、各農家に生産を奨励しています。

また、きなり館前では、毎月二回青空市を開催し、農家からの新鮮な野菜の販売を行っています。

今後、これら新鮮野菜および特産物の一層の品質向上に努め、「きなりブラン

ド」として育成するとともに、後継者の確保を図り、本村の複合農業経営の中心産物として育成していく必要があります。

〔林業〕 林業については、木材価格の低迷や長期にわたる採算性の低下といった林業の構造的な不況とともに、森林所有者の林業経営意欲が減退していることから、人工林の保育、管理が行き届かず、その公益的機能の増進と経済的発展を妨げています。

森林の持つ多面的な機能が将来にわたって持続的に発揮されるよう、適切な森林整備や保全を進め、持続可能な森林経営を推進していくことが必要です。

また、林業労働者の減少と高齢化の進行は、森林の適正な管理や林業振興を図っていく上で問題となっており、林業労働者の確保、育成が急務となっています。林業の就業条件の改善をはじめとした魅力ある林業振興をめざした抜本的な林業対策が必要です。

森林組合においては、経営基盤の強化を図るため、上北山森林組合と下北山森林組合が合併して「吉野きたやま森林組合」となりましたが、今後、地域の森林整備の担い手としての役割が一層期待されているところです。

一方、シカ等の獣害による幼齢林等の被害が増加しており、森林の保全を図る上で問題となっています。

〔水産業〕 水産業については、北山川の主要な部分が、池原ダム・七色ダム湖となり、河川としては、西ノ川、奥地川、前鬼川、池郷川の北山川支流が、主なアユ、アマゴ等の生息可能水域です。

河川については、平成十六年の台風一十一号の記録的豪雨により、大量の土砂が河川に堆積し、魚の生息域を極端に縮小させました。回復には、数年の歳月が必要と思われる。

アユにつきましては、西ノ川下流、七色ダム湖への流れ込み部分に昭和六十一年、アユ苗採捕施設「やな」を設置いたしました。管理については下北山漁業組合に委託し、毎年捕獲してきましたが、漁獲高が一定せず、安定的な放流や販売に結びついていません。平成十六年度実績で、他の組合へ十五万円を売上げまし



た。今後、安定的な採捕に結びつくよう生態、ダム環境等を調査研究し、水産業の振興に結びつくよう努力していきます。

アマゴについては、河川の自然環境に配慮し天然のアマゴが、豊かな自然の中で生息できるよう森林整備等を実施していきます。また、養殖アマゴについては、適切な管理と品質を維持し、安定的な供給と販売をめざします。

【計画】

一、農業

- ・居住環境の保全と地域の特性を生かした農業の振興を図るために、地域や規模に適した作物の発掘をおこなうとともに栽培方法を確立します。
- ・有害鳥獣防除柵等の設備についても積極的に設置を推進し、被害の縮小に努めます。
- ・「きなりブランド」商品として、農産物や「南朝味噌」、「春まな漬け」、「とち餅」等特産物の品質の向上を図るとともに安定した生産、販売に努めます。
- ・遊休農地の有効利用に努めます。
- ・都市部住民が多く訪れる「下北山スポーツ公園」や「きなり館」等の施設に地元農産物、特産物を供給し、販売の推進に努めます。
- ・「大里ふれあい広場」を活用した地元野菜・特産物等の販売推進に努めます。
- ・農産物や特産物の生産グループ、販売グループの育成に努めます。
- ・後継者育成のため、地縁や血縁に頼らず広く農業希望者を受け入れるシステムを確立し、開かれた農業振興を図ります。
- ・農家に対する積極的な支援を行います。

二、林業

・森林をその重視すべき機能ごとに「水土保持」、「森林と人の共生林」、「資源の循環林」に区分し、「水土保持」、「森林と人の共生林」においては、水源涵養、山地災害防止、保健文化等の公益機能の増進を主な目的とし、「資源の循環林」

■村の産業別人口動向（国勢調査）

区分	昭和35年	昭和40年		昭和45年		昭和50年		昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	人 2,013	人 1,259	% -37.5	人 985	% -21.8	人 825	% -16.2	人 797	% -3.4	人 731	% -8.3	人 702	% -4.0	人 611	% -13.0	人 537	% -12.1
第一次産業	% 22.4	% 25.3	-	% 27.7	-	% 23.8	-	% 20.1	-	% 18.5	-	% 14.2	-	% 11.6	-	% 6.5	-
就業人口比率	450	319	-29.1	273	-14.4	196	-28.2	160	-18.4	135	-15.6	100	-25.9	71	29.0	35	-50.7
第二次産業	% 41.7	% 33.7	-	% 27.7	-	% 30.5	-	% 30.2	-	% 27.1	-	% 30.3	-	% 24.7	-	% 25.5	-
就業人口比率	839	424	-49.5	273	-35.6	252	-7.7	241	-4.4	198	-17.8	213	7.6	151	29.1	137	-9.3
第三次産業	% 35.9	% 41.0	-	% 44.6	-	% 45.7	-	% 49.3	-	% 54.4	-	% 55.3	-	% 63.5	-	% 68.0	-
就業人口比率	723	516	-28.6	439	-14.9	377	-14.1	393	4.2	398	1.3	388	-2.5	388	0.0	365	-5.9

においては木材の生産を主な目的としての森林整備を推進します。特に地球温暖化防止対策として、二酸化炭素の吸収による温室効果ガスの削減を行っていく上にも、健全な森林整備を推進します。

・林務作業の効率を高めるために、乗用モノレールや作業道の整備を推進します。また、林道については、通行の安全を図るための改良を促進します。

・健全な森林整備を推進するために、林業従事者の確保、育成に努めます。

・林業の就業条件の改善と高性能機械を主体とした作業システムの確立により若者にとって魅力的な林業振興に取り組みます。

・村内の公共施設をはじめ、住宅などの改築、新築の際、木材の積極的な活用を図ります。

・山林所有者と行政、森林組合等の協力体制を強化し、林業経営の集約化と合理化に努めます。

・自ら施業や経営を行うことができない森林所有者や不在村森林所有者の森林について、森林組合の施業受託、経営受託を推進します。

・森林組合や林研クラブ等と協力して良質のブランドの木材、特用林産物の生産、供給に努めます。

・間伐材の活用について流域全体での取組を検討します。

・林業体験希望者の受け入れ体制の確立とともに、学校教育における林業学習の実施など、林業に対する理解を深めるための林業体験制度を確立します。

・森林インストラクターの育成に努めます。

・林業の必要性と林業に対する理解を深めるための啓発を進めます。

三、水産業

・アユ苗採捕施設「やな」での安定的採捕量の確保をめざします。

・自然環境に配慮した河川環境の維持整備を図り、アユやアマゴ等の魚が住みやすい河川をめざします。

・ダム湖で漁獲可能な、新たな魚種の調査研究を実施します。

・天然漁獲水域と、放流漁獲水域の住み分けを図りきなりの郷にふさわしい自然を大切にする漁業を進めます。



- ・養殖可能魚種の調査研究を、進めます。
- ・アマゴ等、既養殖魚の安定的供給と品質の向上を支援します。

二、きなりブランドの

販売ネットワークづくり（商工業）

より多くの人々に、きなりブランド商品を通じて、きなり文化を提案していきます。

【現況と課題】

〔商工業〕 本村の商工業は、住民の消費生活の広域化に伴い衰退の一途を辿っており、一部の食料品や日用雑貨以外は村外の商業地を利用している状況です。併せて、商業者の高齢化に伴い、将来的にも商業者の減少とともに消費者の地元離れが進むと予測されます。

このような状況から、新たな商業振興の方向としては、春まな漬や栃餅、南朝味噌、割箸など農林業と連携した下北山村のきなりブランド商品の販売など、本村の立地特性を活かした付加価値の高い観光商業体制の確立をめざす必要があります。

また、地元消費者の村外流出を防ぎ、住民の消費需要に対応した商店の共同仕入れ等による商業経営基盤の強化を図るとともに、観光客など村外者の消費ニーズに対応した商店の対応が必要です。

広域的な地域ニーズや事業の効率化に対応するため、商工会活動の広域化を推進する必要があります。

工業については、本村の立地条件からして、今後も難しい状況ですが、ケーブルテレビ網の整備により情報技術を活用した新しい就業の場の創出が期待できます。

【計画】

- ・地元消費者の村外流出を防ぐためにも、住民の消費需要に対応した商店の共同仕入れや新しい販売システムの構築を検討し、商業経営基盤の強化を促進します。
- ・観光客や村外の消費者に向けたインターネット販売や通信販売等を軸とした商業振興を促進します。
- ・村外者（特に観光客）の消費ニーズに対応できる商品開発や販売体制を検討します。
- ・きなりブランドの商品の生産、加工、流通体制を確立します。
- ・きなりブランド商品のイメージアップ計画を樹立します。
- ・広域的な地域ニーズや事業の効率化に対応するため、商工会活動の広域化や合併を推進します。
- ・きなりの郷の魅力ある商業振興をめざした種々の商工イベントを推進します。
- ・ケーブルテレビ網を活用した、SOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）等、情報技術に関連した就業の場の創出に努めます。
- SOHO：小さな事務所や、自宅でパソコンを利用して仕事を行うこと。

三、元氣、本氣の人氣村づくり（観光）

豊かな自然の中、元氣な村人がしっかり暮らしている
きなりの郷下北山村を、広く開放していきます。

【現況と課題】

〔観光〕 本村においては、下北山スポーツ公園を中心に自然スポーツ型の余暇・観光施設の整備を進めてきました。近年、社会経済情勢等の影響もあり、観光施



設全体の利用者は減少してきていますが、各施設とも繰り返し訪れる利用者数は増加傾向にあります。

スポーツ公園の宿泊施設は、開設後二十年を経過しており、各施設とも老朽箇所が目立ってきています。

下北山温泉「きなりの湯」は平成十年度には年間一七万三五〇〇人の利用客がありました。平成十五年度には一四万八〇七人に減少しました。今後きなり館レストランや売店等と一体となった魅力ある施設に改善していく必要があります。キャンプ場はコテージやバンガローの整備が一段落し、今後とも積極的な利用促進を図っていく必要があります。

また、池の平公園においても、年々利用者数は減少していますが、ゴルフ場の整備をはじめ、グラウンドゴルフなどのレクリエーション施設やグラウンドの整備を行うことにより、利用者の増加に期待がもたれます。

このほか、下北山の観光資源としては、前鬼不動七重の滝、明神池、石ヤ塔に代表される自然や桜まつり、山の音楽祭などのイベント等があります。とくに平成十六年七月には大峰奥駈道、前鬼が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたことから、この地域の自然がより注目を浴びることが予想されます。

しかしながら、平成十六年の台風一号により、前鬼川流域の各所で土砂崩れが発生し、世界遺産に登録された三重の滝への登山道等が崩落するなどの大きな被害がありました。

池原ダム湖、七色ダム湖のバスフィッシングには、全国各地から年間約五万人の人が訪れています。ダム湖周辺の環境整備を進めることにより、今後より振興を図っていく必要があります。

【計画】

- ・老朽化しているスポーツ公園施設の改修を行います。
- ・スポーツ公園における多目的雨天施設の整備を検討します。
- ・下北山温泉「きなりの湯」をはじめとしたスポーツ公園施設における接客マナー



やサービスの質の向上を図り、利用者の増加に努めます。

- ・平成の森バンガローやコテージの施設整備の充実を図り、利用促進に努めます。
- ・池の平ゴルフ場、池の平ハウスの利用促進に努めます。
- ・池の平公園周辺施設の整備および維持、管理に努めます。
- ・美しい渓谷の保全のため、河川環境の美化に努めます。
- ・観光イベントの充実を図ります。
- ・インターネット等を活用した観光、イベントのPRに努めます。
- ・平成十六年の台風一一号で被害のあった前鬼登山道等の整備、改修に努めます。
- ・世界遺産に登録された、大峯南奥駈道、前鬼の観光活用を検討します。
- ・ダム湖周辺の環境整備を進めることにより、バス釣り客の一層の増加を図ります。
- ・西ノ川、奥地川、前鬼川、池郷川の北山川支流でのアユ釣り、アマゴ釣り場の環境整備と自然環境の維持を図ります。